

## 第43回 関東地区スペシャルオリンピックスを開催 *U.S., Japanese communities come together for 43rd Kanto Plains Special Olympics*

November 7, 2022

By Staff Sgt. Ryan Lackey  
374th Airlift Wing Public Affairs

11月5日、アスリート、支援者、組織委員が横田ハイスクールの陸上競技場に集い、第43回関東地区スペシャルオリンピックスを開催した。

場内には、日本に駐留する国防総省の職員やその家族、自衛隊のボランティア、関東地域の住民など700人以上が集まり、52人のアスリート(知的障害のある競技参加者)に声援を送った。

第374軍使命支援中隊持続サービス下士官責任者兼同大会秘書ダニエル・ヒリアード上級曹長は、「当大会は、コミュニティーをひとつにし、6歳の子どもから70歳の大人までのアスリートが最多10種目の競技に臨む」と説明し、「地元日本のパートナーと協力して大会を実現し、皆さんに楽しんでもらえることを大変嬉しく思う」とコメントした。

アスリートたちは、50～400メートル走、円盤投げ、走り幅跳び、サッカーボール蹴り、バスケットボール、水泳、ボーリングの中から計10種目までの競技に参加し、日頃の練習の成果を競い合った。

米国国防省在日特別代表部の職員で、デージー・エリオットさんの父親であるステーシー・エリオット氏は、「競技に参加できる娘にとっても、その機会つくれる我々にとっても、今日は最高の日だ」「娘は今日の日をとっても楽しみにしている。普段友達を作る機会が少ない知的障害のある多くの子供たちにとって、この大会は社会参加の機会であり、日米のコミュニティーの交流の場を作り、支え合いながら絆を深められる最高の機会だ」とコメントした。

関東地区スペシャルオリンピックスは、能力や障害の有無に関係なく、すべての人が受け入れられ、歓迎される共生社会と地域の一体化の実現をめざすため、1979年に設立された。

大会ボランティアとして参加した航空自衛官ナカジマ・ハルジロウ2等空曹は、「700人以上が集う今日のイベントの手伝いできたことを光栄に思う」「米軍の仲間たちが障害のある日本の人々を支援してくれることに一同とても感謝している。関係を強化できるイベントをこれからも続けていきたい」と述べた。

